

**主体性の育成には、教師が生徒に向き合い、考え続けることが必要**

生徒の主体性を育てる手段にマニュアルはない。教師がさまざまな事例、同僚の指導などから学び、常に生徒に向き合って考え続けることが必要ではないか。そう考える中、10月号の特集で紹介されていた事例はそれぞれ参考になった。静岡県立池新田高校の「最初は褒めるが、続けて褒めない。もつと上を目指したい」という言葉を選び、自分も改めて気をつけたいと思った。神奈川県の木村剛先生と鳥取県の福島卓也先生の「学習の量より質が大切」という指摘は、私自身、量で迫る必要がある層と量から質へ転換させなければならぬ層の見極めが難しく、質に切り替える難しさを実感しているところであり、いろいろ考えさせられた。

〔愛知県・匿名希望〕

**学校全体での授業改善の努力、主体性を促す声掛けに感銘**

現場で学力の多層化を痛感する中、10月号の特集を読み、主体性の育成をどう実践するのかを改めて考えさせられた。特に、広島県立広島中学・高校の事例で、生徒に求める前に、教師の方がまず授業改善の余地がないのかを考え、高い水準の授業を求めて努力し続けていることに感銘を受けた。面談では褒めて励ますことを基本とし、そのような声掛けを繰り返すことによって、生徒自身が自分に足りないものを自ら探すことが出来るようになっていく。生徒が主体的に学習できる仕掛

読者のページ

## Reader's VIEW

Volume 5

読者の先生方からのご意見を紹介します

けを、声掛けによって実践している。特定の教師だけでなく、全ての教師がそれらを実践することで、学校の強みとなり、生徒は教師を信頼して受験に臨めるのだと感じた。

〔東京都・私立東京農業大学第一高校中等部・

小堀健一〕

**ICTや模試の活用を自校にも広めたい**

いつも、「指導変革の軌跡」の各校の入試合格実績を参考に、勤務校の参考になる項目をノートに書きとめている。10月号に掲載された新潟県立新潟高校は、自校とは異なる点も多いが、ICTによる授業の効率化が参考になった。現在、ICTによる反転授業などが行われるようになっていっているので、それについても実例を紹介してほしいと思った。また、石川県・私立北陸学院中学・高校の事例では、模試の問題を分析し、授業進捗や内容が適切だったかを確認し、次の模試までの計画を立てて授業を行うことに共感した。スタディーサポートや模試の成績が思うように伸びないことを、未履修範囲があることだけに帰結させるようではいけない。ICTと模試活用について、自校の会議で今後訴えていきたいと思う。

〔大阪府立みどり清朋高校・中村泰造〕

教師川柳

夏長しやっぱり無理か秋入学

福島県・臥煙

## 子どもは未来

ベネッセ教育総合研究所は、  
子どもたちの成長に寄り添う研究と  
社会への発信を通して、  
一人ひとりが学びに向かい、  
今と未来を“よく生きる”ことに  
貢献することを目指しています。

ベネッセ教育総合研究所

編集後記

◎今号の特集では、山梨県立甲府南高校を取り上げていただきました。山梨は、実は私の故郷でもあります。初めて故郷で仕事をすることだけで胸躍りましたが、取材後の雑談の際、取材にご協力いただいた三枝先生に、私が山梨出身であることを告げると、私の出身校でもご勤務されていたことが判明。残念ながら、私の入学した年に別の学校にご異動されたとのことでしたが、私が教わった先生方もよくご存知で、「私の担任はA先生でした」「B先生は今、C高校の校長だよ」といった会話をしながら、20年近く前の当時をお互いに懐かしみました。(柏木)

VIEW21 12月号 Vol.5

2013年12月6日発行

発行人 岡田晴奈  
編集人 谷山和成  
発行所 (株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所  
印刷製本 凸版印刷(株)  
編集協力 (有)ペンタコ  
執筆協力 中丸満、二宮良太、長谷川敦  
撮影協力 荒川潤、ヤマグチイキ  
イラスト協力 カモ  
情報編集室  
〒206-8686 東京都多摩市落合1-34  
電話 042-311-3390

©Benesse Corporation 2013

VIEW21

2014  
February  
2月  
Volume 6

次号は  
2月14日発行(予定)  
「VIEW21」高校版は  
年6回の発行です